



Sport Academy

—— スポーツアカデミー2015 ——

障害者のスポーツ実施状況

笹川スポーツ財団 研究員
小淵和也

2015年12月4日(金) 19:00～



障害者スポーツを取り巻く現状

- スポーツ基本法の成立
→障害者スポーツの推進について言及
- 東京パラリンピック開催決定
- 障害者スポーツの管轄
→厚生労働省から文部科学省へ移管
- スポーツ庁の設置

● 競技スポーツ

● 生涯スポーツ

オリンピックとパラリンピック 最大の差異

- 障害があること
- 補装具を使用できること
- クラス分け、持ち点制度があること

障害者スポーツの不思議??

	両下腿 切断	片下腿 切断	
障害程度 【等級】	2級	<u>4級</u>	片下腿切断の方が軽度
クラス分け	T43	<u>T44</u>	片下腿切断の方が軽度
100 ^{メートル} 走 【世界記録】	<u>10秒57</u>	10秒61	両下腿切断の方が早い

●競技スポーツ

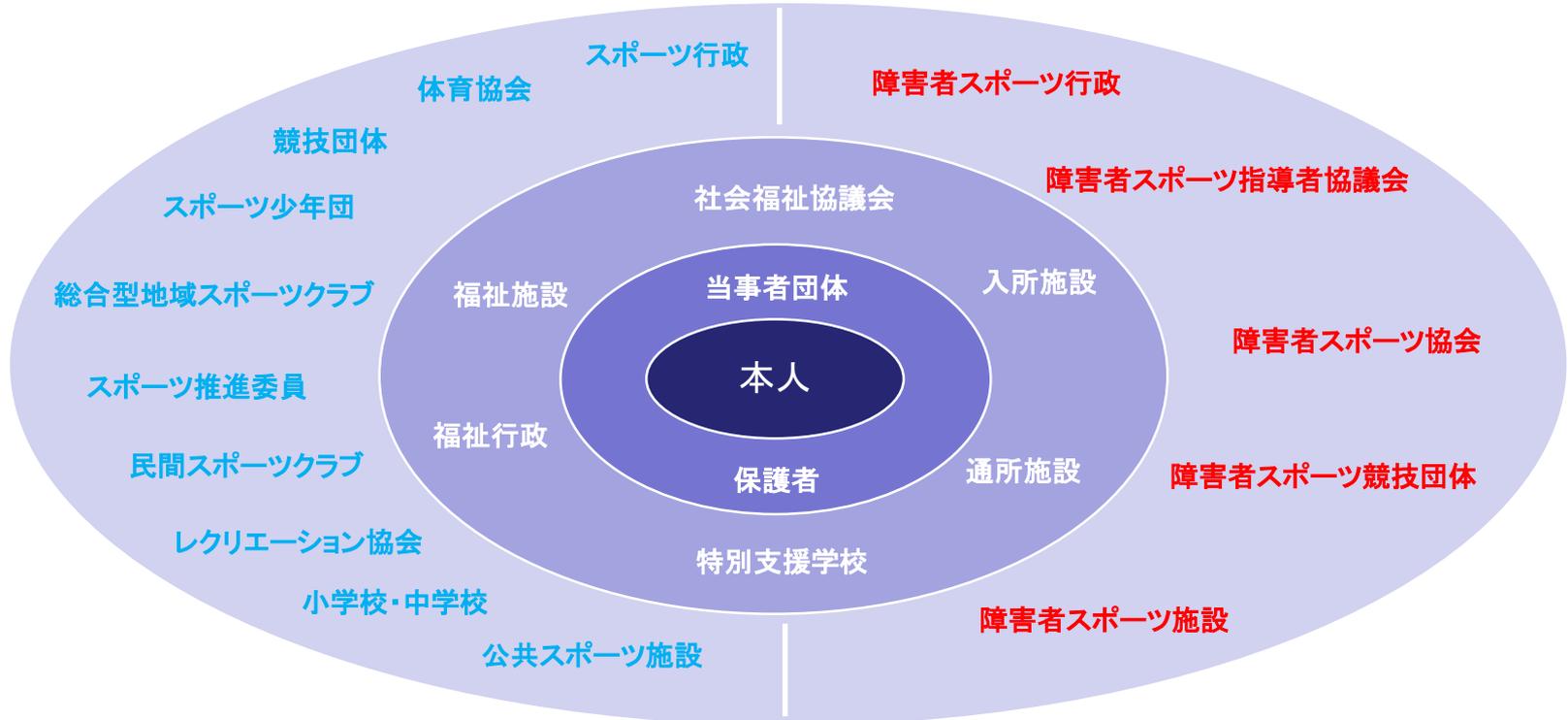
●生涯スポーツ

地域のスポーツ環境(健常者・障害者)

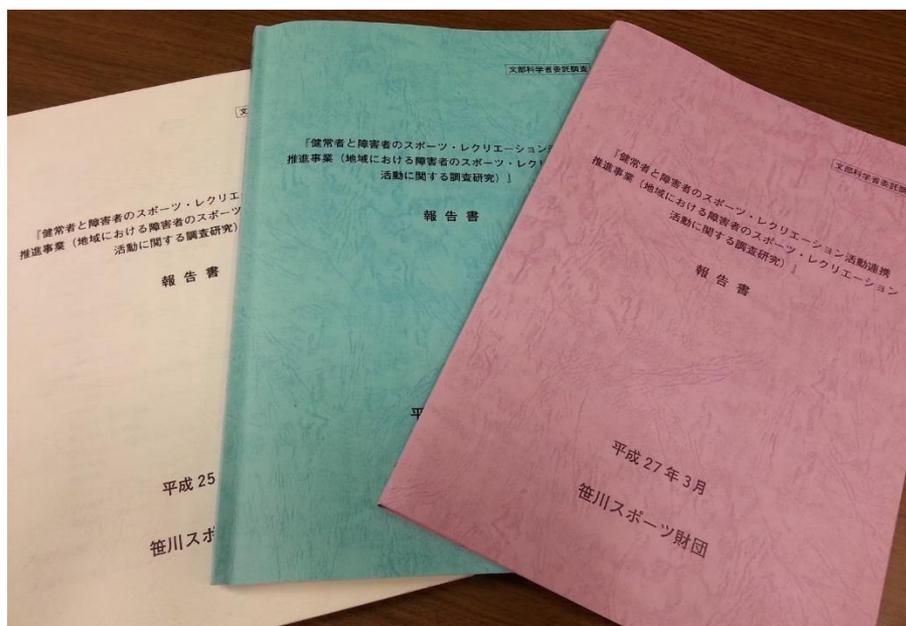
●生涯スポーツ

●障害福祉

●障害者スポーツ



(2012～2014年度)文部科学省受託調査
『健全者と障害者のスポーツ・レクリエーション活動連携推進事業
(地域における障害者のスポーツ・レクリエーション活動に関する調査研究)』



(2012～2014年度)文部科学省受託調査
『健全者と障害者のスポーツ・レクリエーション活動連携推進事業
(地域における障害者のスポーツ・レクリエーション活動に関する調査研究)』
調査検討会議委員

委員長	藤田紀昭	同志社大学大学院 スポーツ健康科学研究科 教授	2012～2014年度
委員	内田若希	九州大学大学院 人間環境学研究院 講師	2012～2014年度
	大日方邦子	電通パブリックリレーションズ シニア・コンサルタント	2012～2014年度
	加藤木伸克	神奈川県教育委員会 専任主幹	2012～2014年度
	小久保信幸	日本レクリエーション協会 マネージャー	2012～2013年度
	澤江幸則	筑波大学 体育系 准教授	2012～2014年度
	高山浩久	東京都障害者スポーツ協会 地域スポーツ振興室 室長	2012～2014年度
	富栄さやか	仙台市レクリエーション協会	2014年度
	中島秀夫	滋賀県立障害者自立支援協議会 事務局長	2013～2014年度
	水原由明	日本障がい者スポーツ協会 スポーツ推進部長	2012～2014年度
	渡邊一利	笹川スポーツ財団 専務理事	2012～2014年度

本日のテーマ

- ①障害児・者のスポーツ実施状況
- ②地方自治体の障害者スポーツ推進体制
- ③総合型地域スポーツクラブにおける障害者の参加状況
- ④特別支援学校における障害児・者のスポーツ実施状況

障害児・者のスポーツ実施状況

「障害児・者のスポーツライフに関する調査」

○調査方法：インターネット調査

《回答者の条件》

- ①障害児・者本人あるいは同居する家族に障害児・者がいる者
- ②障害児がいる場合は7歳以上であること
- ③兄弟、姉妹、第2子以降の子で障害児・者が複数いる場合は、それぞれ年齢が一番上の者についてのみ回答すること

《回収標本数の設定》身体障害(肢体不自由、視覚、聴覚、音声・言語・そしゃく機能、内部)、知的障害、発達障害、精神障害について回答を収集

○調査期間：2013年11月1日～11月15日

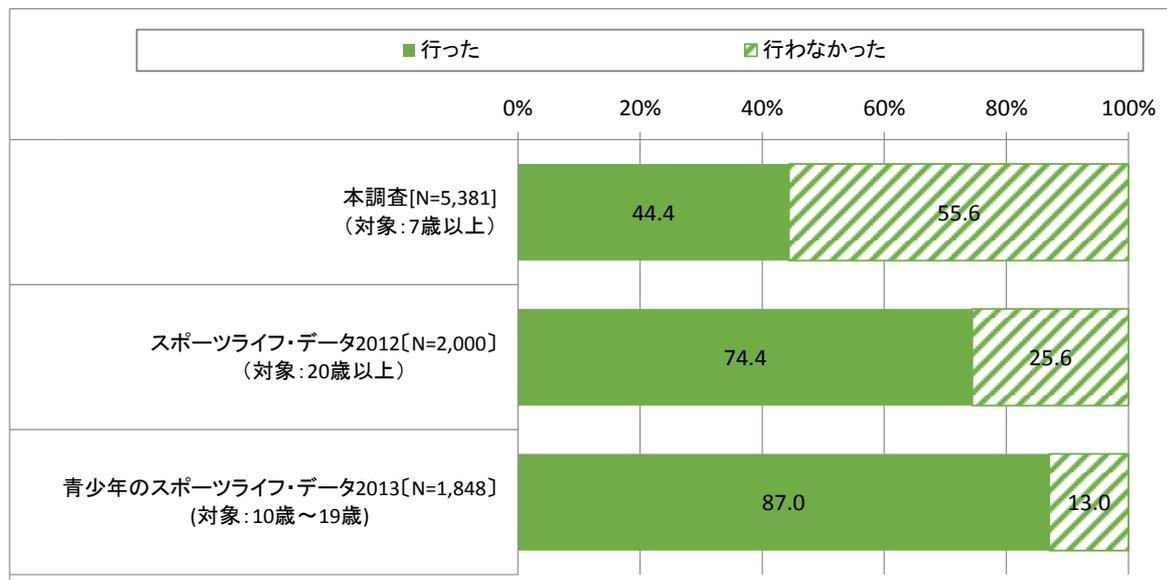
○結果：調査対象条件に該当する回答者 4,268人

回答者本人および同居する家族内の障害児・者を含めた障害児・者の標本総数 5,381人

○過去1年間のスポーツ・レクリエーション実施状況

障害者の過去1年間のスポーツ・レクリエーション実施状況は44.4%であった。
成人の年1回以上の運動・スポーツ実施者の割合は74.4%であった。

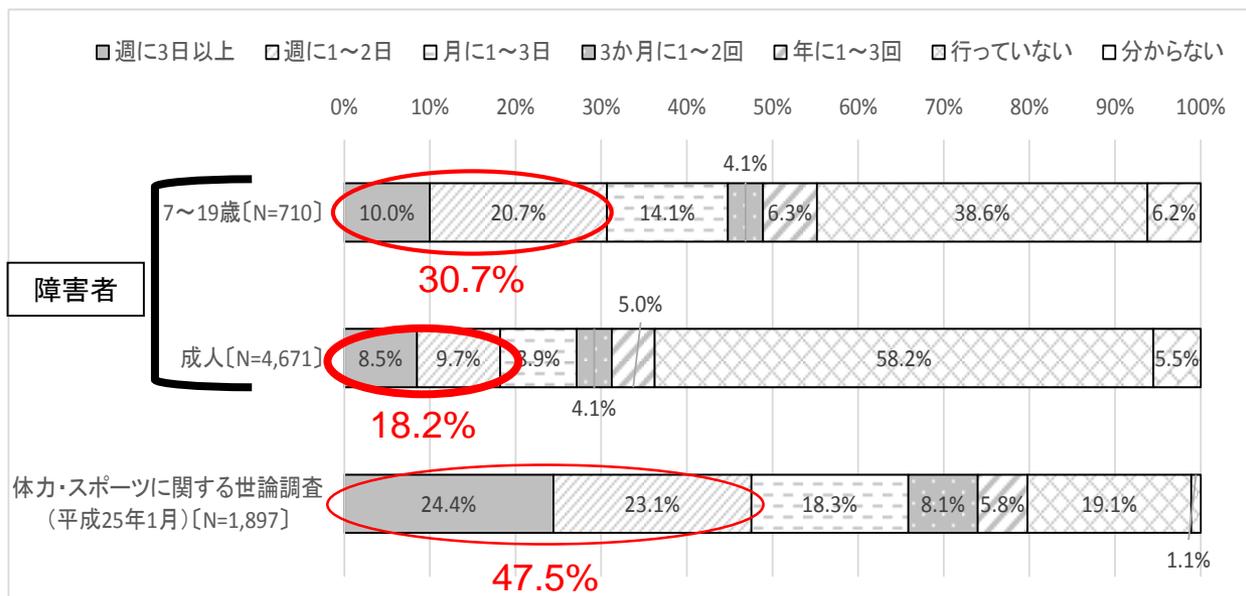
図表1-1 過去1年間のスポーツ・レクリエーション実施の有無



○過去1年間にスポーツ・レクリエーションを行った日数

7～19歳の週1回以上の実施者は3割、成人の実施者は2割弱であった。全国の成人を対象にした調査では5割となっており、障害者のスポーツ実施頻度が低かった。

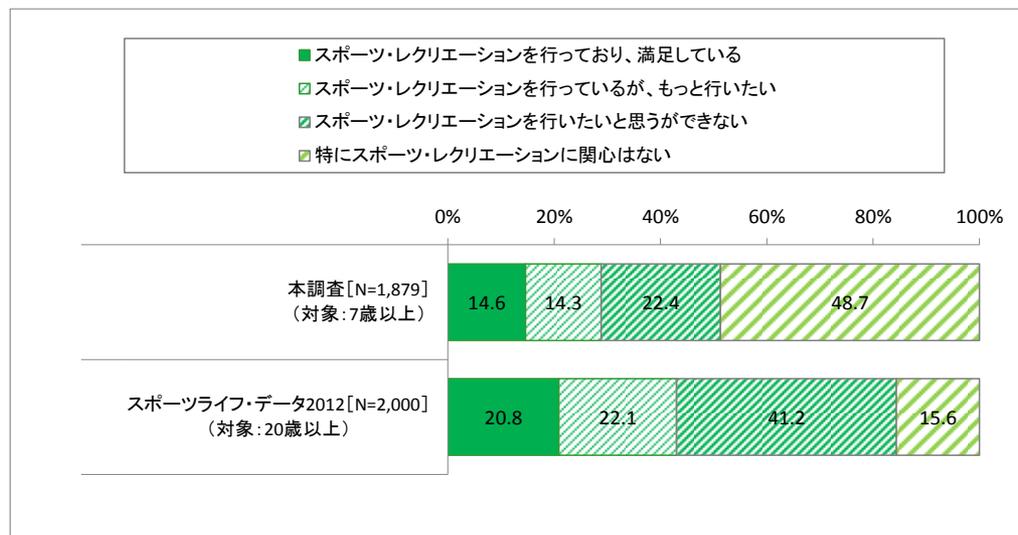
図表1-2 過去1年間にスポーツ・レクリエーションを行った日数



○現在のスポーツ・レクリエーションへの取組

「特にスポーツ・レクリエーションに関心はない」が最も多く、次いで「スポーツ・レクリエーションを行いたいと思うができない」であった。SSFスポーツライフ・データと比較すると、スポーツ・レクリエーションへの無関心層が多かった。

図表1-3 現在のスポーツ・レクリエーションへの取り組み

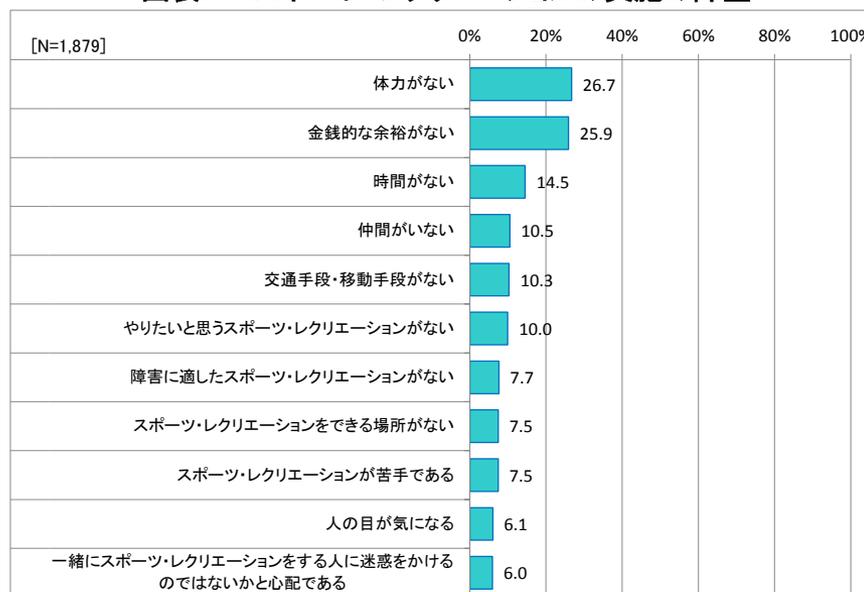


注) スポーツ・レクリエーションへの意識に関する設問のため、対象を回答者本人が障害児・者である場合に限定した。

○スポーツ・レクリエーション実施の障壁

「体力がない」(26.7%)「金銭的な余裕がない」(25.9%)「時間がない」(14.5%)が多かった。「特にない」と回答した無関心層が33.1%と最も多かった。

図表1-4 スポーツ・レクリエーションの実施の障壁



注) スポーツ・レクリエーションへの意識に関する設問のため、対象を回答者本人が障害児・者である場合に限定した。

○過去1年間に行ったスポーツ・レクリエーション 水泳の実施率が全障害種で高い傾向になった。

図表1-5 過去1年間に行ったスポーツ・レクリエーション(7~19歳・N=436)(複数回答)

	肢体 (必車不 要椅自)子由		肢体 (不車不 要椅自)子由		視 覚 障 害		聴 覚 障 害		知 的 障 害		発 達 障 害		精 神 障 害	
	N=26		N=28		N=23		N=41		N=147		N=231		N=35	
1位	散歩 (ぶらぶら歩き)	30.8	水泳	35.7	散歩 (ぶらぶら歩き)	26.1	水泳	31.7	水泳	43.5	水泳	41.8	体操 (軽い体操、 ラジオ体操など)	25.7
2位	海水浴	26.9	散歩 (ぶらぶら歩き)	28.6	海水浴	21.7	体操 (軽い体操、 ラジオ体操など)	26.8	散歩 (ぶらぶら歩き)	37.4	体操 (軽い体操、 ラジオ体操など)	27.3	散歩 (ぶらぶら歩き)	
3位	水泳	23.1	なわとび	25.0	体操 (軽い体操、 ラジオ体操など)		散歩 (ぶらぶら歩き)	22.0	体操 (軽い体操、 ラジオ体操など)	24.5	散歩 (ぶらぶら歩き)	25.5	水泳	22.9
4位	アクアエクササイズ (水中歩行・運動など)	15.4	海水浴	21.4	ウォーキング	17.4	筋カトレーニング	17.1	海水浴	22.4	海水浴	22.1	ウォーキング	17.1
5位	乗馬	11.5	体操 (軽い体操、 ラジオ体操など)	17.9	釣り		キャンプ	ボウリング	15.0	なわとび	21.2	ボウリング		
6位	釣り		釣り	10.7	なわとび	13.0	サッカー	ウォーキング	14.3	ボウリング	15.2	海水浴		
7位	ドッジボール		ボウリング	アイススケート	8.7		8.7	スキー	なわとび	12.9	ドッジボール	13	釣り	
8位	ポッチャ		水泳 他	釣り		ジョギング・ランニ ング		10.2	サッカー	12.1	なわとび			

○過去1年間に行ったスポーツ・レクリエーション 水泳の実施率が全障害種で高い傾向になった。

図表1-6 過去1年間に行ったスポーツ・レクリエーション(成人・N=1,954)(複数回答)

	肢体 (車不 要自 子由)	肢体 (車不 要自 子由)	視 覚 障 害	聴 覚 障 害	知 的 障 害	発 達 障 害	精 神 障 害	
	N=159	N=432	N=181	N=231	N=209	N=136	N=534	
1位	体操 (軽い体操、 ラジオ体操など)	12.6 ウォーキング	28.5 ウォーキング	28.2 ウォーキング	32.0 散歩 (ぶらぶら歩き)	31.6 ウォーキング	33.1 ウォーキング	34.1
2位	散歩 (ぶらぶら歩き)	10.7 散歩 (ぶらぶら歩き)	26.9 散歩 (ぶらぶら歩き)	18.8 散歩 (ぶらぶら歩き)	19.5 体操 (軽い体操、 ラジオ体操など)	27.3 散歩 (ぶらぶら歩き)	32.4 散歩 (ぶらぶら歩き)	31.6
3位	アイススケート	体操 (軽い体操、 ラジオ体操など)	16.4 体操 (軽い体操、 ラジオ体操など)	15.5 体操 (軽い体操、 ラジオ体操など)	17.3 ウォーキング	25.8 体操 (軽い体操、 ラジオ体操など)	19.1 体操 (軽い体操、 ラジオ体操など)	18.4
4位	ウォーキング	10.1 水泳	16.2 筋カトレニング	10.5 筋カトレニング	10.4 水泳	17.2 水泳	15.4 筋カトレニング	12.0
5位	筋カトレニング	筋カトレニング	12.0 海水浴	8.3 水泳	9.1 ボウリング	16.7 ボウリング	11.8 水泳	11.6
6位	水泳	5.7 釣り	7.9 釣り	7.2 ボウリング	7.8 ハイキング	10.0 筋カトレニング	10.3 ジョギング・ランニ ング	8.6
7位	海水浴	5.0 ゴルフ(コース)	6.0 水泳	6.6 釣り	6.5 海水浴	6.2 ジョギング・ランニ ング	8.8 海水浴	6.6

地方自治体の 障害者スポーツ推進体制

地方自治体における障害者スポーツ推進体制

「地方自治体における調査スポーツ行政の現況調査」

○調査対象：

都道府県、市区の173自治体

市区は、政令指定都市、中核市、特例市及び特別区を指す

○調査方法：質問紙調査

○主な調査内容：

- ・障害者スポーツの主たる担当部署**
- ・主催・共催の障害者スポーツ大会やイベント**
- ・主催・共催の障害者スポーツ指導者・ボランティアの養成講習会**
- ・障害者スポーツ行政の文部科学省への移管の影響**

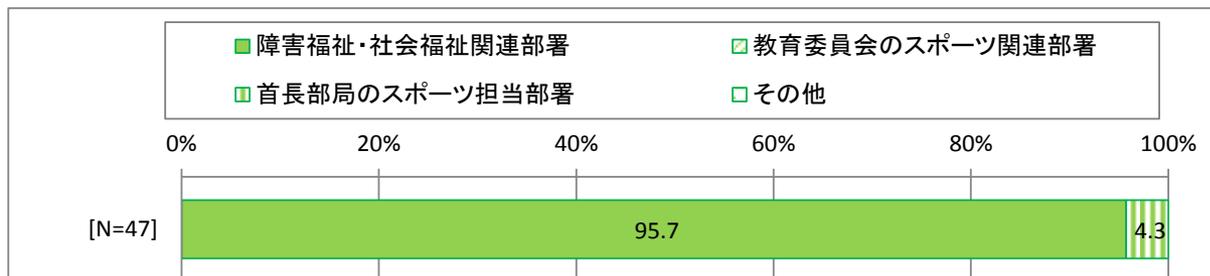
○回収数167件（都道府県の回収率：100%、市区の回収率：95.2%）

○調査期間：2014年8月18日～9月16日

○障害者スポーツの主たる担当部署

都道府県では、45道府県が「障害福祉・社会福祉関連部署」、残りの2都県が「首長部局のスポーツ担当部署」である。市区では、約7割が「障害福祉・社会福祉関連部署」、2割弱が「教育委員会等のスポーツ担当部署」である。

図表2-1 障害者スポーツの主たる担当部署(都道府県)



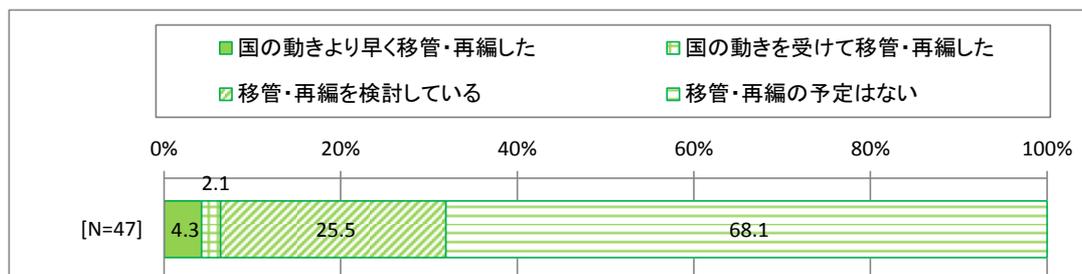
図表2-2 障害者スポーツの主たる担当部署(市区)



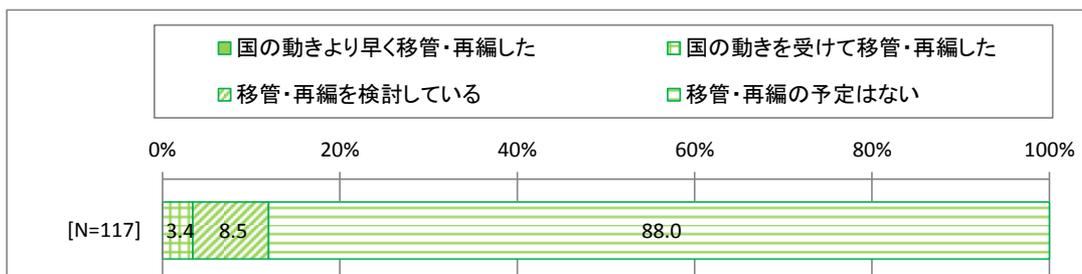
○障害者スポーツ行政の文部科学省への移管の影響

「移管・再編の予定はない」都道府県は7割、市区は9割であった。移管・再編をしたのは、都道府県では3都県、市区では4市であった。

図表2-3 障害者スポーツ担当部局の移管・再編状況(都道府県)



図表2-4 障害者スポーツ担当部局の移管・再編状況(市区)



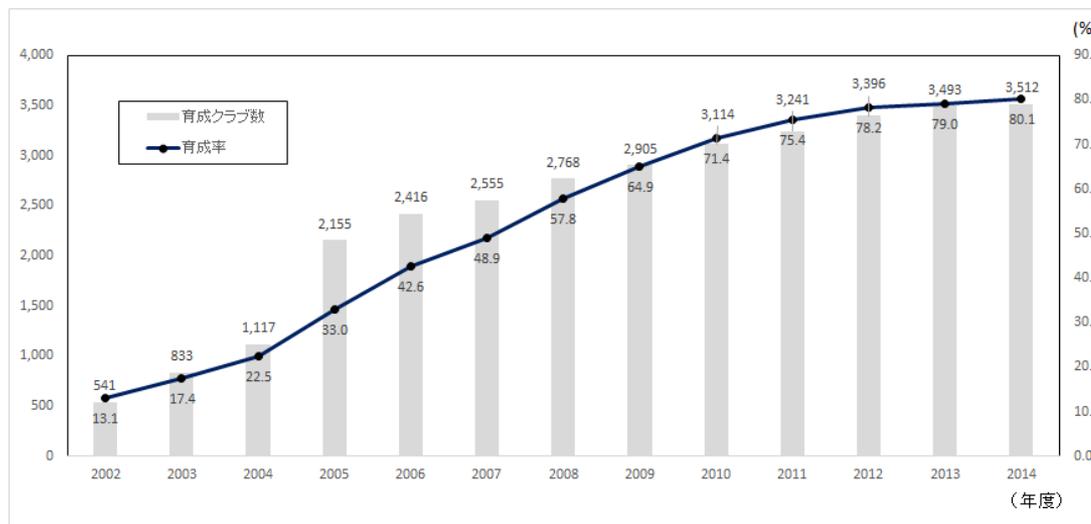
総合型地域スポーツクラブにおける 障害者の参加状況調査

総合型地域スポーツクラブの現状

○クラブ設立・育成状況

年度	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
育成クラブ数	541	833	1,117	2,155	2,416	2,555	2,768	2,905	3,114	3,241	3,396	3,493	3,512
育成率	13.1	17.4	22.5	33.0	42.6	48.9	57.8	64.9	71.4	75.4	78.2	79.0	80.1

図表3-1 総合型地域スポーツクラブ 育成クラブ数と育成率の推移



育成クラブ数：創設済のクラブと創設準備中のクラブの合計

文部科学省「総合型地域スポーツクラブ育成状況調査」(2014)より作成

育成率：全市区町村に対する総合型クラブ育成市区町村の割合

障害者と総合型地域スポーツクラブ

「総合型地域スポーツクラブの障害者スポーツ振興に関する調査」

○調査対象：

総合型地域スポーツクラブ全国協議会に加盟している47都道府県1,840クラブ。兵庫県は、県内833クラブの中から無作為抽出の20クラブ。

○調査方法：質問紙調査

○主な調査内容：

- ・ 障害者の参加経緯や参加状況**
- ・ 参加者の障害種別**
- ・ 他組織との連携状況**
- ・ 受入のための支援内容や参加に必要な課題**

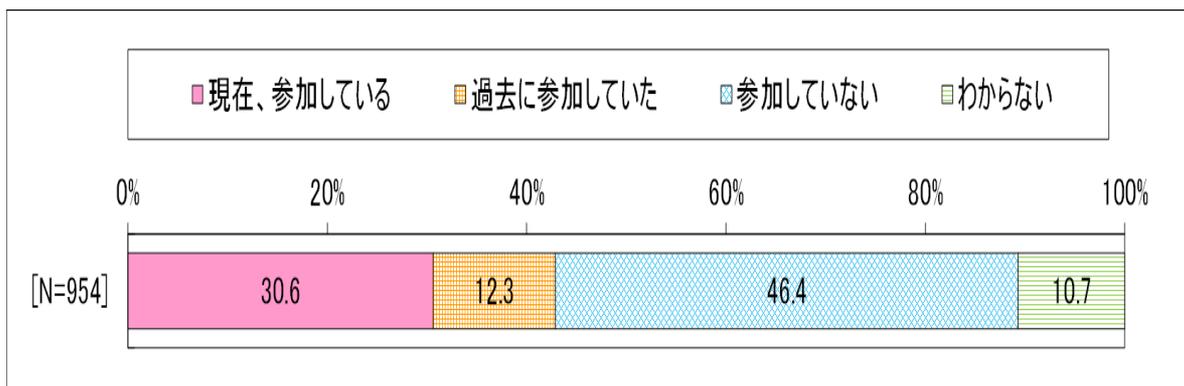
○回収数969件（回収率：52.7%）

○調査期間：2012年6月18日～7月31日

○過去または現在の障害者の参加状況

障害者が「現在、参加している」または「過去に参加していた」クラブは、約4割である。

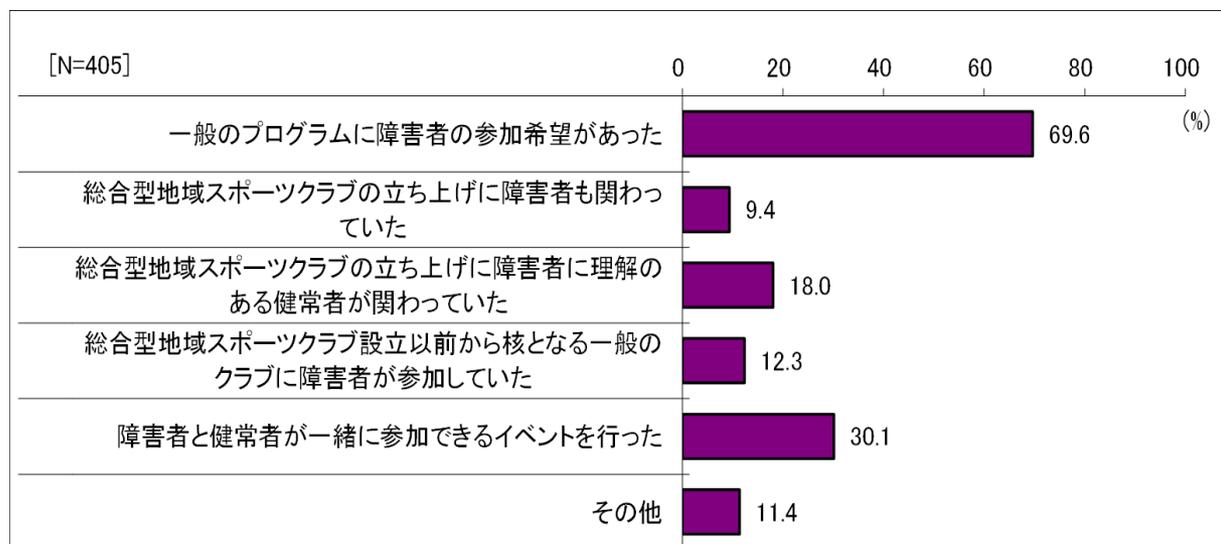
図表3-2 過去または現在の障害者の参加状況



○障害者が参加する経緯

約7割のクラブが「一般のプログラムに障害者の参加希望があった」、約3割のクラブが「障害者と健常者が一緒に参加できるイベントを行った」。

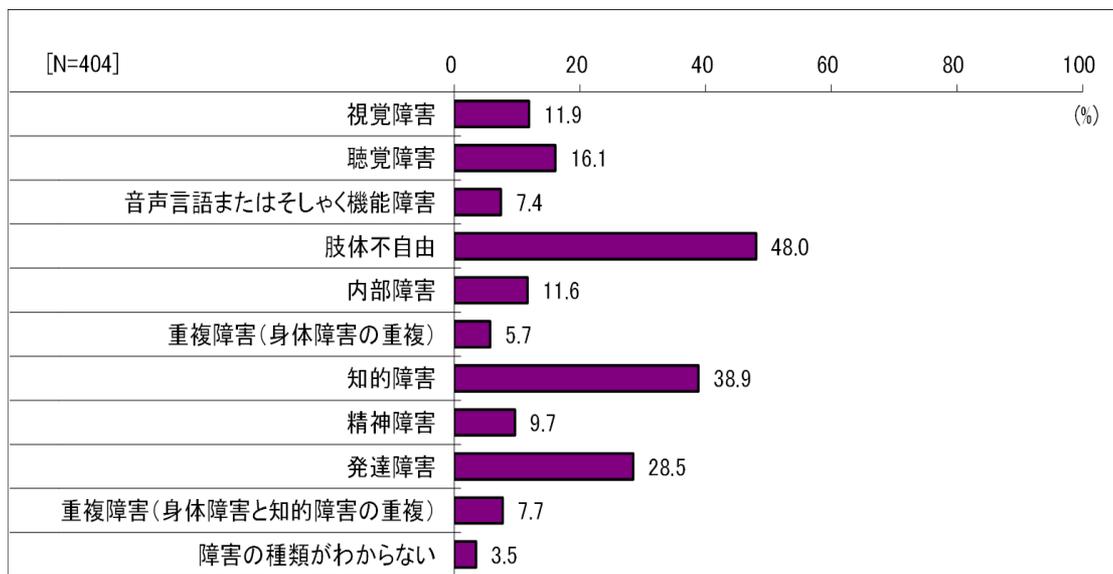
図表3-3 障害者が参加する経緯(複数回答)



○参加している障害者の種別

約5割が「肢体不自由」、約4割が「知的障害」、約3割が「発達障害」である。

図表3-4 参加している障害者の種別(複数回答)



○参加している障害者の種別数合計別にみたクラブ数

参加している（していた）障害者の障害種別数では、「1種類」が約5割、「2種類」が約4分の1を占めている

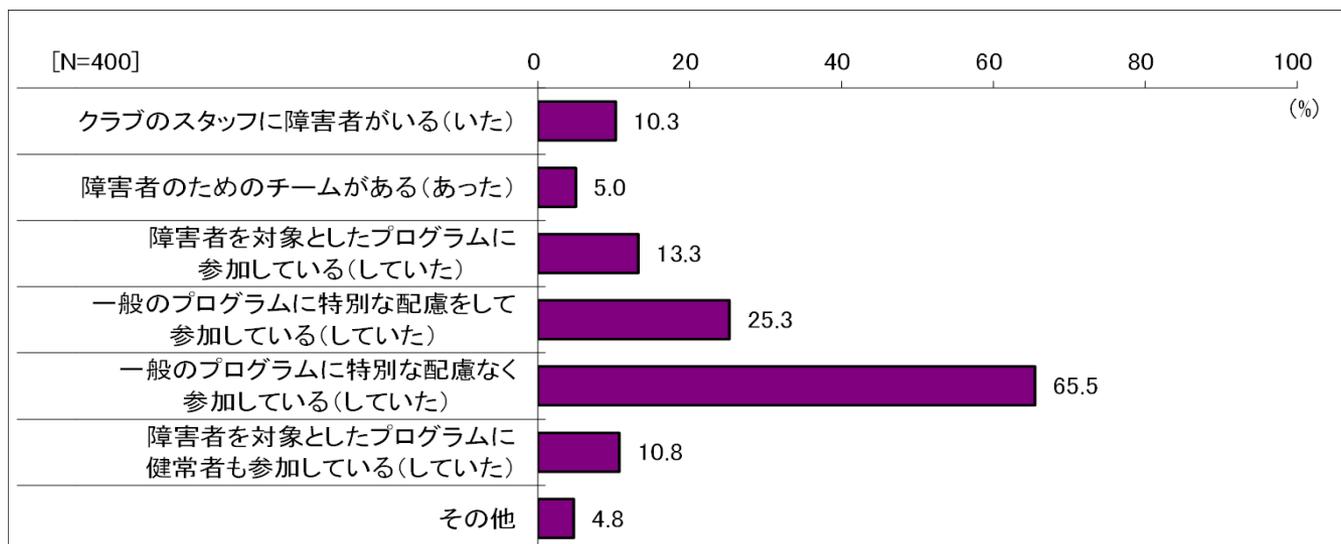
図表3-5 参加している障害者の種別数合計別にみたクラブ数

種類数	クラブ数	割合
1種類	196	48.5%
2種類	105	26.0%
3種類	52	12.9%
4種類	21	5.2%
5種類	6	1.5%
6種類	5	1.2%
7種類	2	0.5%
8種類	0	0.0%
9種類	1	0.2%
10種類	2	0.5%
無回答	14	3.5%
合計	404	100.0%

○障害者の参加状況

「一般のプログラムに特別な配慮なく参加している（していた）」が65.5%、
「一般のプログラムに特別な配慮をして参加している（していた）」が25.3%、
「障害者を対象としたプログラムに参加している（していた）」が13.3%である。

図表3-6 障害者の参加状況(複数回答)



○障害者が参加している（していた）種目

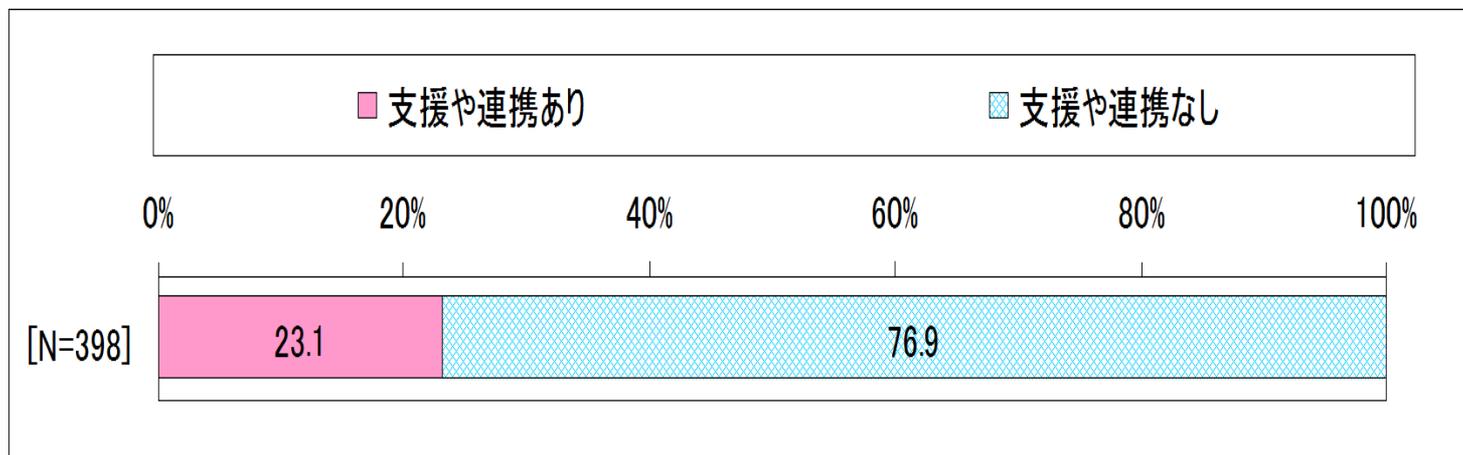
「卓球」が15.1%、「グラウンド・ゴルフ」が13.1%、「健康体操・運動」が11.4%である。

図表3-7 障害者が参加している(していた)種目 (自由記述)

順位	種目	回答数	回答率 (N=405)
1	卓球	61	15.1%
2	グラウンド・ゴルフ	53	13.1%
3	健康体操・運動	46	11.4%
4	ウォーキング、ハイキング	42	10.4%
5	ジュニアスポーツスクール	34	8.4%
6	サッカー、フットサル	33	8.1%
7	バドミントン	30	7.4%
8	水泳、プール教室	26	6.4%
9	スポーツ吹矢	23	5.7%
10	陸上競技、マラソン	22	5.4%
	ソフトバレーボール	22	5.4%

- 障害者の参加に関する他の組織からの支援や連携の有無
約4分の1のクラブで、他の組織からの支援や連携がある。

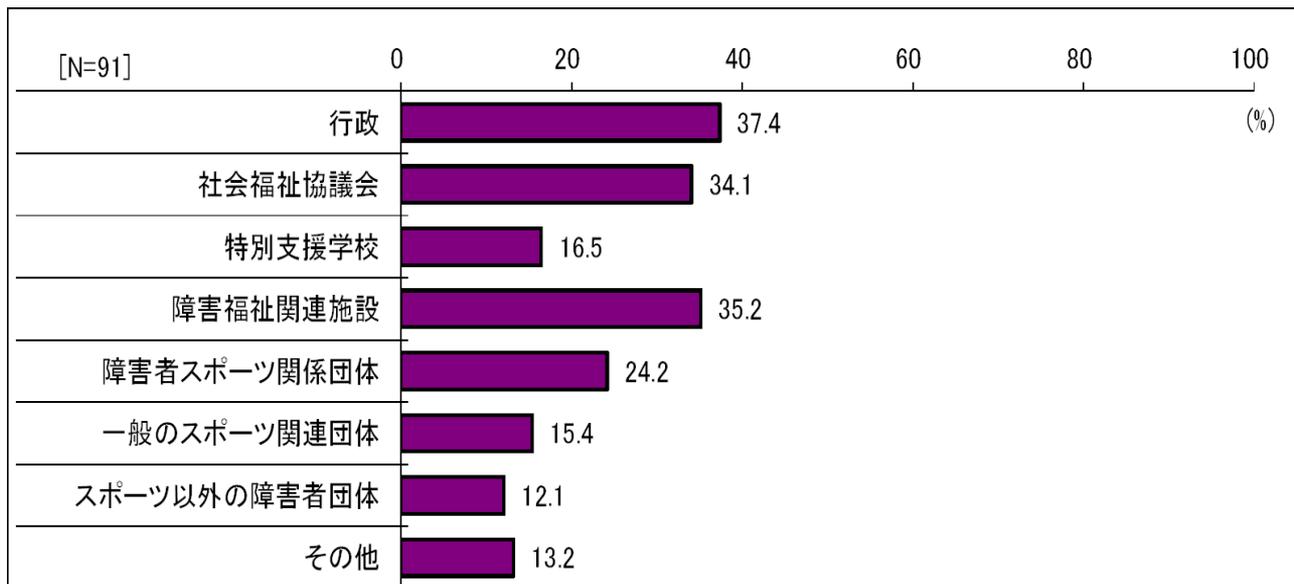
図表3-8 障害者の参加に関する他の組織からの支援や連携の有無



○支援先や連携先

「行政」が最も多く37.4%、「障害福祉関連施設」が35.2%、「社会福祉協議会」が34.1%である。

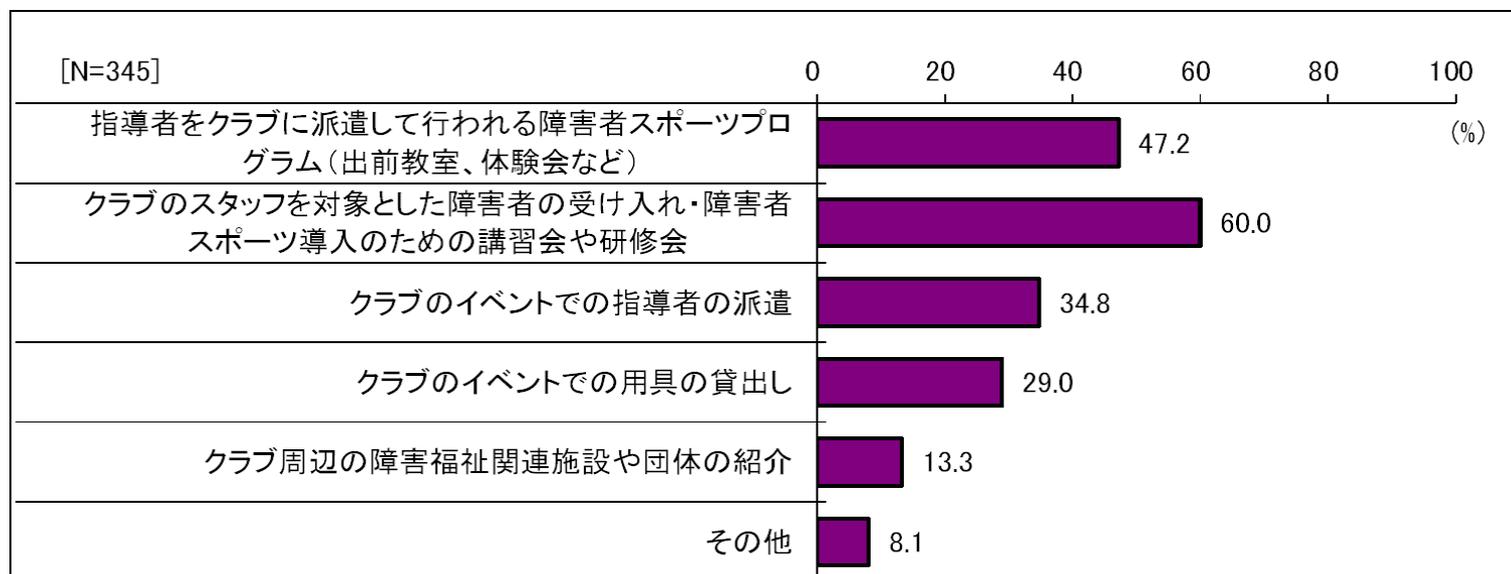
図表3-9 支援先や連携先(複数回答)



○障害者を受け入れるために希望する支援

「クラブのスタッフを対象とした障害者の受け入れ・障害者スポーツ導入のための講習会や研修会」が6割、「指導者をクラブに派遣して行われる障害者スポーツプログラム（出前教室、体験会など）」が47.2%である。

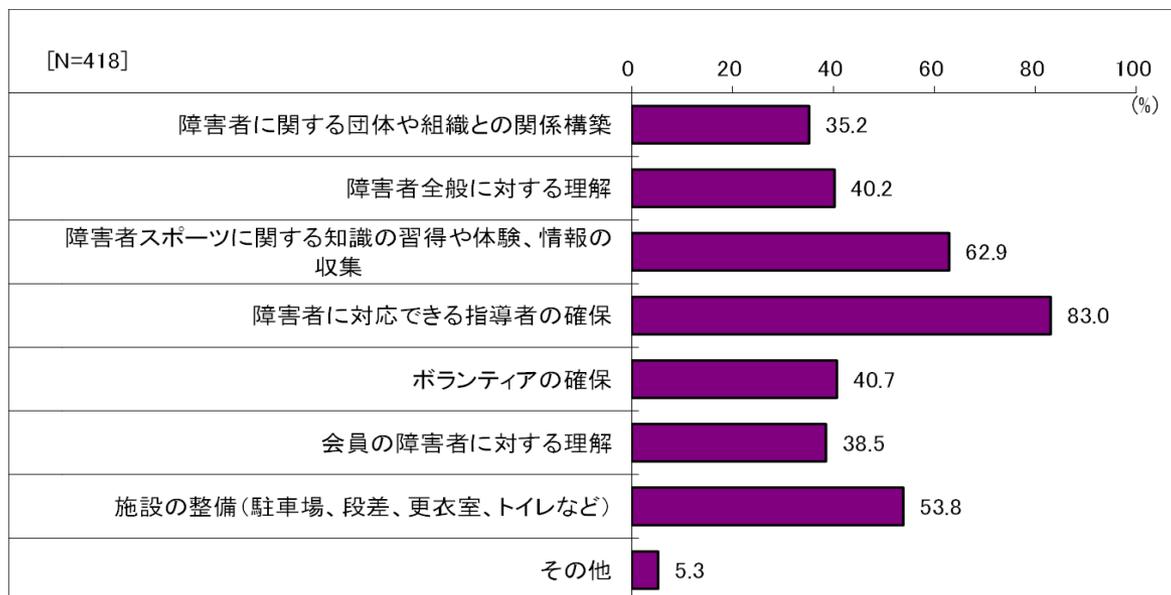
図表3-10 障害者を受け入れるために希望する支援(複数回答)



○障害者が参加していないクラブが考える課題

「障害者に対応できる指導者の確保」が83.0%、「障害者スポーツに関する知識の習得や体験、情報の収集」が62.9%、「施設の整備（駐車場、段差、更衣室、トイレなど）」が53.8%である。

図表3-11 障害者の参加が可能になるために必要な課題(複数回答)



○クラブ紹介① 筆の里スポーツクラブ（広島県熊野町）

1. クラブの概要

会員数：1,035人

活動場所：体育館、グラウンド、公民館等

活動種目：バレーボール、バドミントン、卓球（ラージボール含む）、
グラウンド・ゴルフ、健康体操、エアロビクス等

2. 障害者の参加経緯

クラブ設立当初、障害者団体からの要望を受け、グラウンド・ゴルフのクラブを立ち上げ、健常者と一緒に受け入れた。

3. 障害者の参加状況

【肢体不自由】【内部障害】グラウンド・ゴルフ、卓球

【知的障害・発達障害】卓球、ラージボール卓球、ソフトバレーボール

- ・障害者を特別視せず、会員みんなが同じ仲間意識で活動。
- ・知的障害と発達障害がある会員はヘルパー同行、保護者同伴で参加。
- ・障害者のための特別なプログラムはない。

○クラブ紹介② NPO法人新湊カモンスポーツクラブ（富山県射水市）

1. クラブの概要

会員数：1,382人

活動場所：体育館、テニスコート、グラウンド、多目的室等

活動種目：バドミントン、新体操、卓球、サッカー、エアロビクス、
ジュニア体操、テニス等

2. 障害者の参加経緯

同じ施設で活動していた視覚障害者のサークルを勧誘し、クラブのメンバーに入ってもらった。

3. 障害者の参加状況

【視覚障害者】サウンドテーブルテニス

- ・活動の中心は、以前のサークルメンバー約15人。
- ・クラブの体験イベントなどを通じて、子どもたちに楽しんでもらう機会を提供。
- ・行政に働きかけ、バス停から体育館玄関までの点字ブロックシート
の設置や、STT台購入の支援を受けている。

○クラブ紹介③ くしびきスポーツクラブ（山形県鶴岡市）

1. クラブの概要

会員数：約240人

活動場所：スポーツセンター、体育館、武道場等

活動種目：軽スポーツ（パンポン）、卓球、ラージボール卓球、ソフトバレーボール、バドミントン、エクササイズ等

2. 障害者の参加経緯

車いすの男性（60代）がクラブの会員募集チラシをみて参加を申し込んだ。その後の口コミで、車いすの会員は2人に増えている。

3. 障害者の参加状況

【肢体不自由】スポーツ吹き矢、カローリング

・月2回の教室に参加。

・競技上の配慮はしていないが、活動の動線や健康面には常に配慮している。

・車いすの会員は、自ら車を運転するので、送迎は不要。

・施設内の段差には、クラブスタッフがスロープを置いて移動をサポート。

特別支援学校における 障害児・者のスポーツ実施状況

特別支援学校における障害児・者のスポーツ実施状況

「特別支援学校のスポーツ環境に関する調査」

○調査対象：

平成24年度全国特別支援学校一覧（2012年5月1日現在）をもとに、
全国の特別支援学校（1,211校。分校、分教室含む）を対象。

○調査方法：質問紙調査

○主な調査内容：

- ・ 通常の体育の授業以外の活動
- ・ 部活動やクラブ活動の状況
- ・ スポーツ施設の状況
- ・ 児童生徒の自主的なスポーツ活動につなげるための配慮

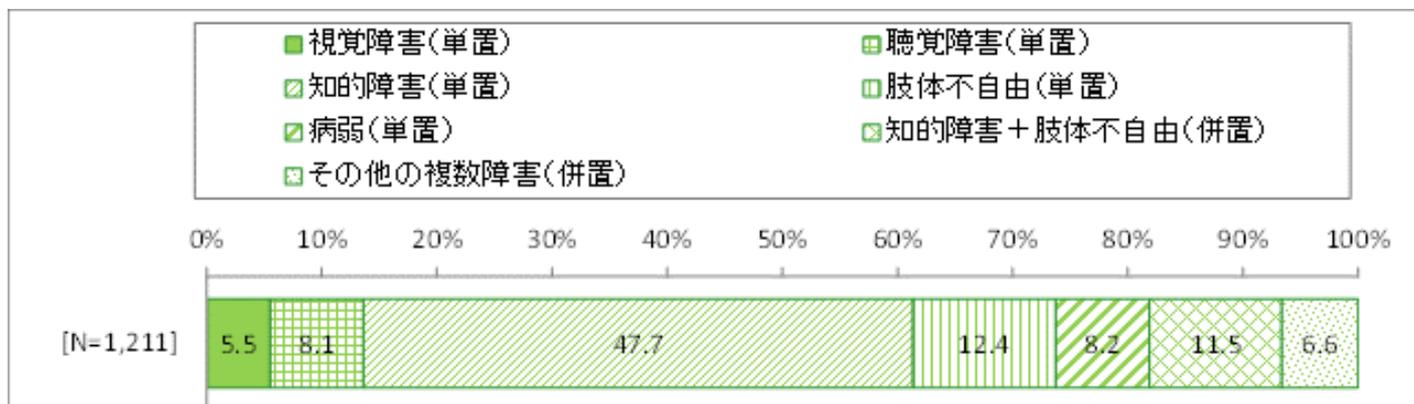
○回収数909校（回収率：75.1%）

○調査期間：2013年9月12日～11月30日

○対象学校の属性

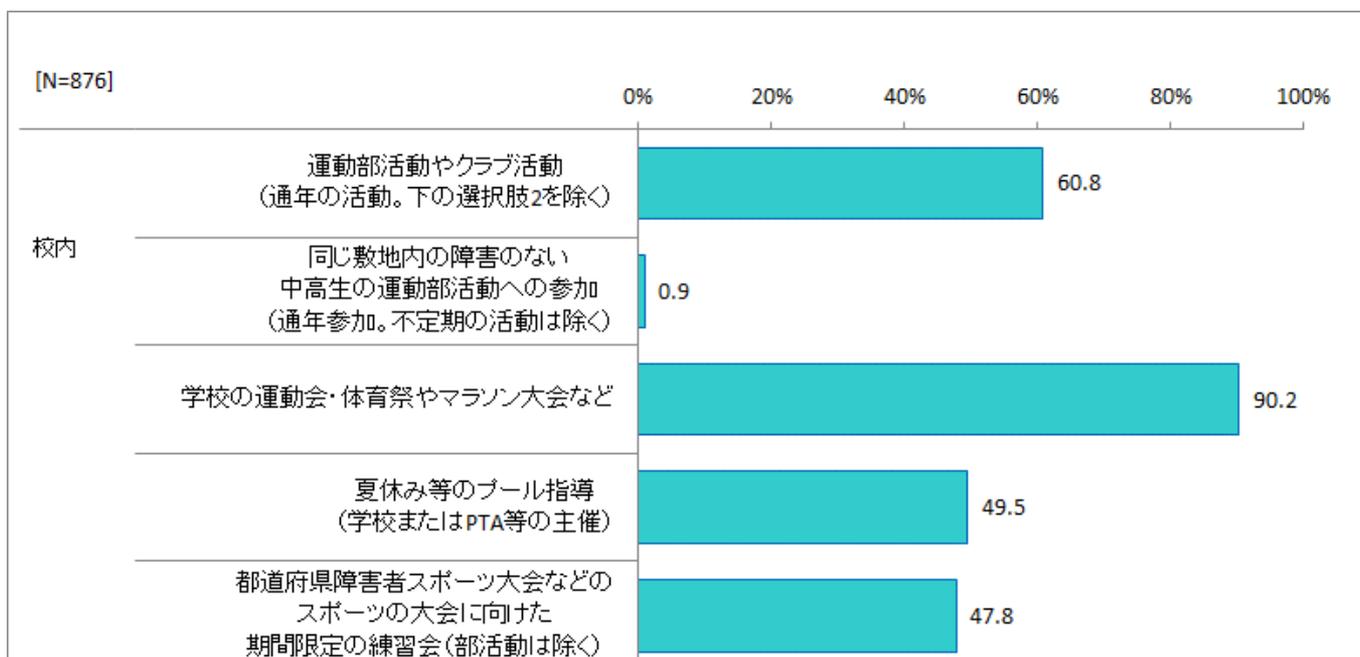
「知的障害（単置）」が約5割、「肢体不自由（単置）」、「知的障害＋肢体不自由（併置）」が約1割である。

図表4-1 対象学校の属性(障害種別内訳)



- 体育の授業以外におけるスポーツの機会について
約9割の学校が「学校の運動会・体育祭やマラソン大会など」、約6割の学校が「運動部活動やクラブ活動」。

図表4-2 体育の授業以外におけるスポーツの機会(複数回答)



○体育の授業以外におけるスポーツの機会について（障害種別）
運動部活動やクラブ活動は、「聴覚障害（単置）」で9割、「視覚障害（単置）」で8割を超えている。

図表4-3 体育の授業以外におけるスポーツの機会(障害種別)

	(%)						
	視覚障害 (単置)	聴覚障害 (単置)	知的障害 (単置)	肢体不自由 (単置)	病弱 (単置)	知的障害 + 肢体不自由 (併置)	その他の複数障害 (併置)
	N=56	N=74	N=439	N=95	N=54	N=98	N=60
運動部活動やクラブ活動 (通年の活動。下の選択肢2を除く)	80.4	90.5	61.0	29.5	29.6	70.4	66.7
同じ敷地内の障害のない 中高生の運動部活動への参加 (通年参加。不定期の活動は除く)	1.8	0.0	1.4	0.0	0.0	0.0	1.7
学校の運動会・体育祭やマラソン大会など	96.4	95.9	93.2	77.9	66.7	91.8	93.3

○運動部活動・クラブ活動の実施種目

小学部から高等部を通じて、「陸上競技」と「サッカー（ブラインドサッカーを含む）」は多く実施されている。

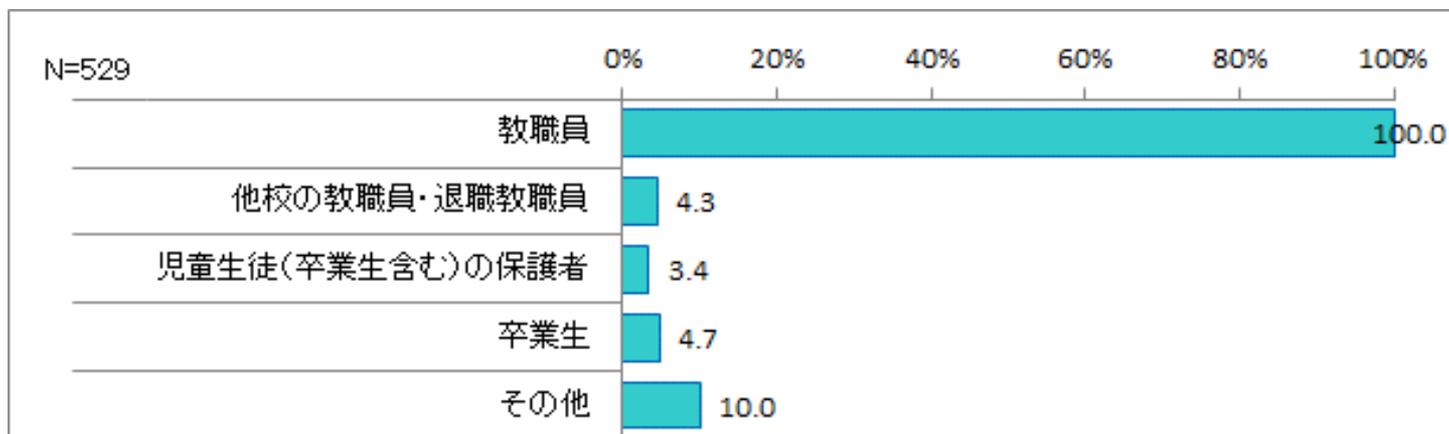
図表4-4 運動部活動・クラブ活動の実施種目（複数回答）

順位	中学部[N=273]		高等部[N=478]	
	実施種目	(%)	実施種目	(%)
1位	陸上競技	52.4	陸上競技	60.7
2位	卓球	30.4	サッカー (ブラインドサッカーを含む)	42.9
3位	サッカー (ブラインドサッカーを含む)	25.6	バスケットボール	39.5
4位	バスケットボール	17.6	卓球	33.9
5位	フライングディスク	16.1	フライングディスク	19.9
6位	野球 (ティーボールを含む)	11.7	バドミントン	17.8
7位	バドミントン	11.4	ソフトボール	14.4
8位	フロアバレーボール	10.3	野球 (ティーボールを含む)	11.7
9位	水泳	8.8	バレーボール (ソフトバレーを含む)	11.1
10位	バレーボール (ソフトバレーを含む)	8.1	水泳	9.6

○指導者・サポートスタッフ

運動部活動・クラブ活動の指導者、サポートスタッフとして、すべての学校が「教職員」と回答している。

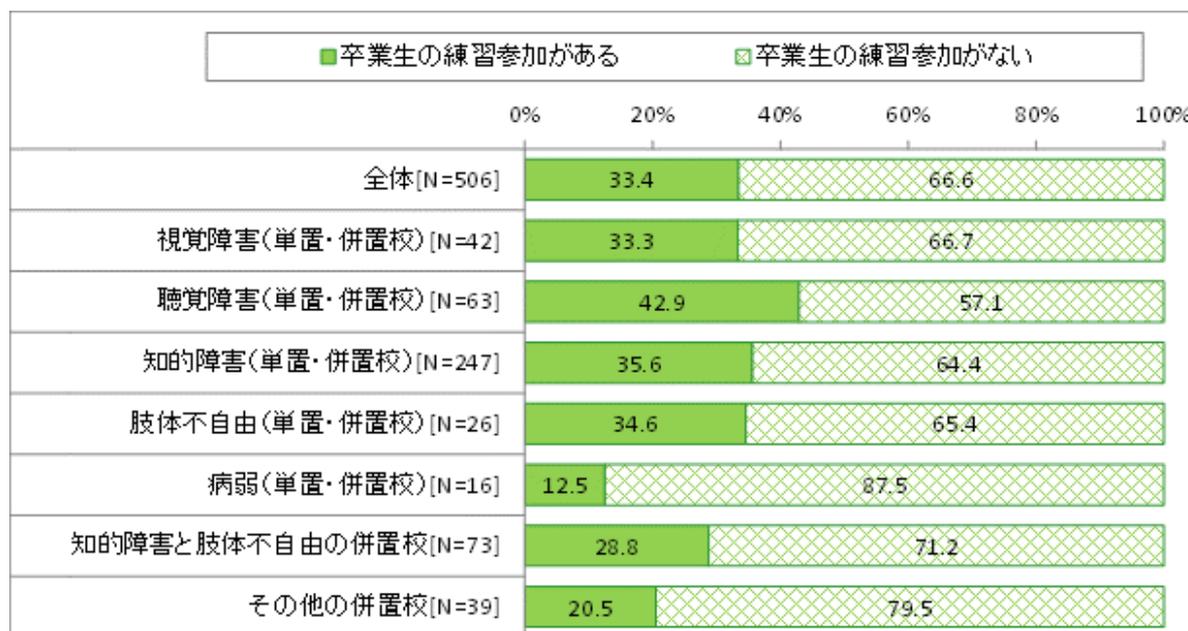
図表4-5 運動部活動・クラブ活動の指導者、サポートスタッフ(複数回答)



○卒業生の練習参加

全体で約3割、障害種別では「聴覚障害のみ」が4割を超えている。

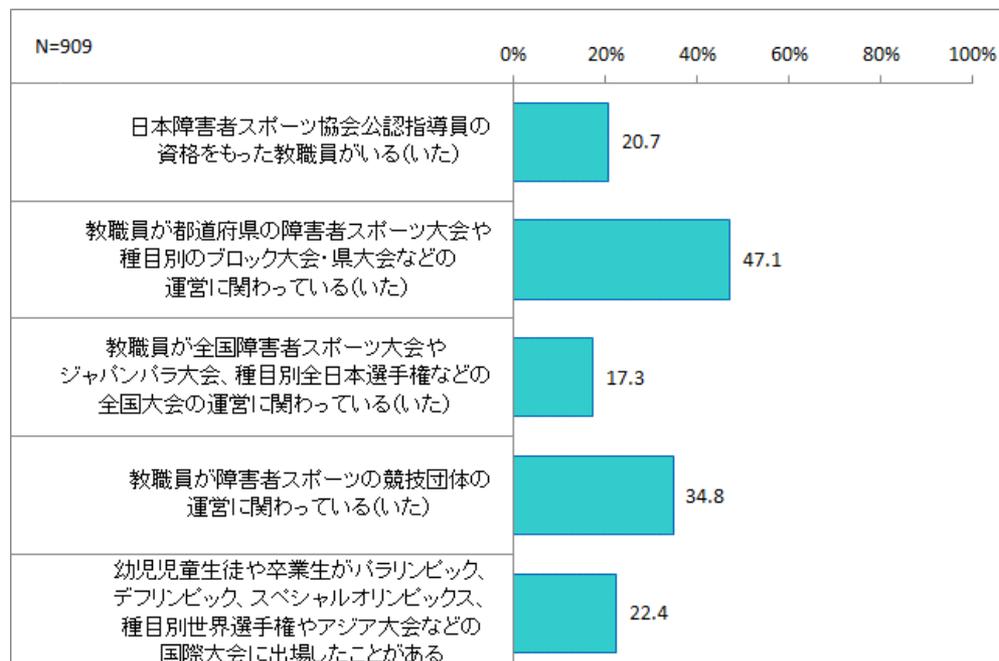
図表4-6 運動部活動・クラブ活動における卒業生の練習参加状況



○教職員や幼児児童生徒と障害者スポーツとの関わり

「教職員が都道府県の障害者スポーツ大会や種目別のブロック大会・県大会などの運営にかかわっている(いた)」が約5割である。

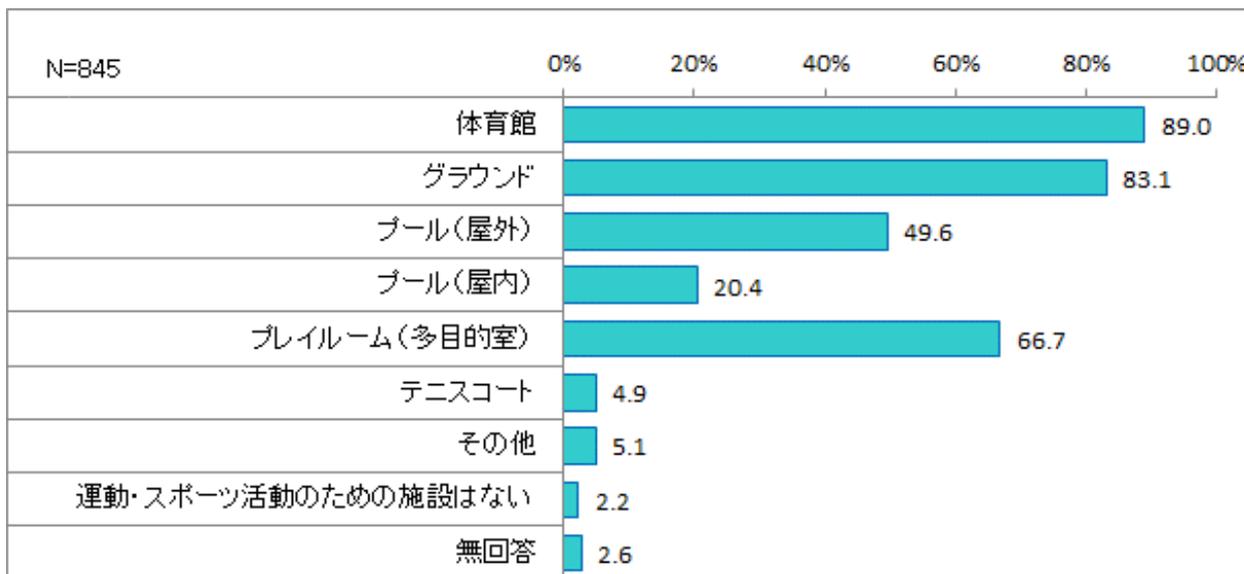
図表4-7 教職員や幼児児童生徒と障害者スポーツとの関わり



○運動・スポーツ活動のための施設

「体育館」が約9割、「グラウンド」が約8割、「プレイルーム（多目的室）」が約6割である。

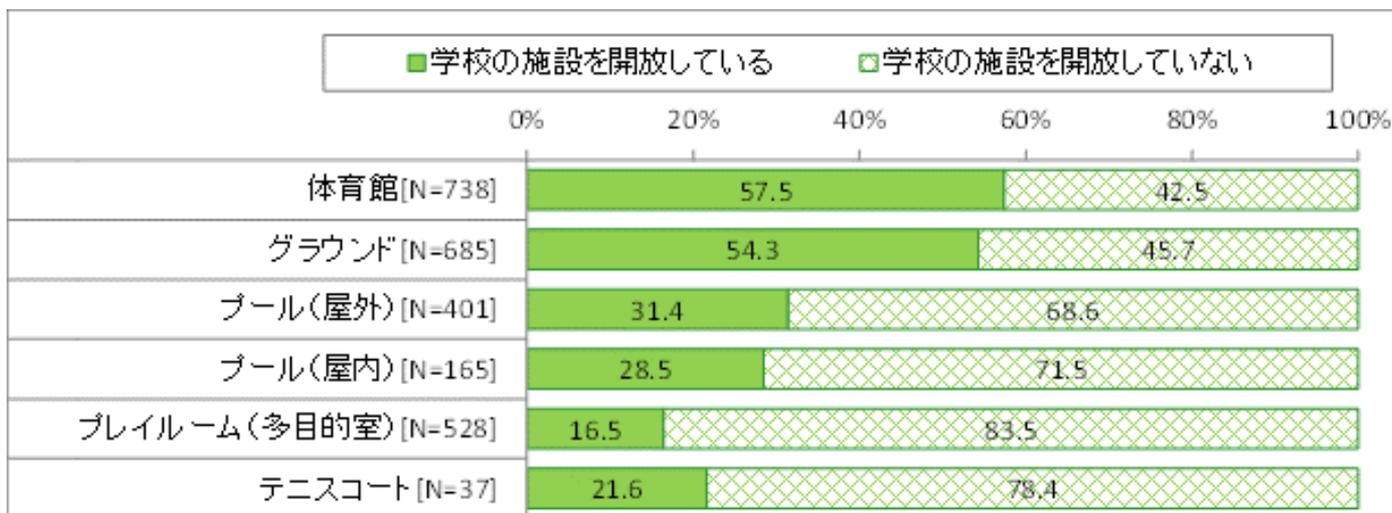
図表4-8 学校にある運動・スポーツ活動のための施設（複数回答）



○運動・スポーツ活動のための施設

保有している学校体育施設の開放状況を見ると、「体育館」が約6割、「グラウンド」が約5割、「プール（屋外）」が約3割である。

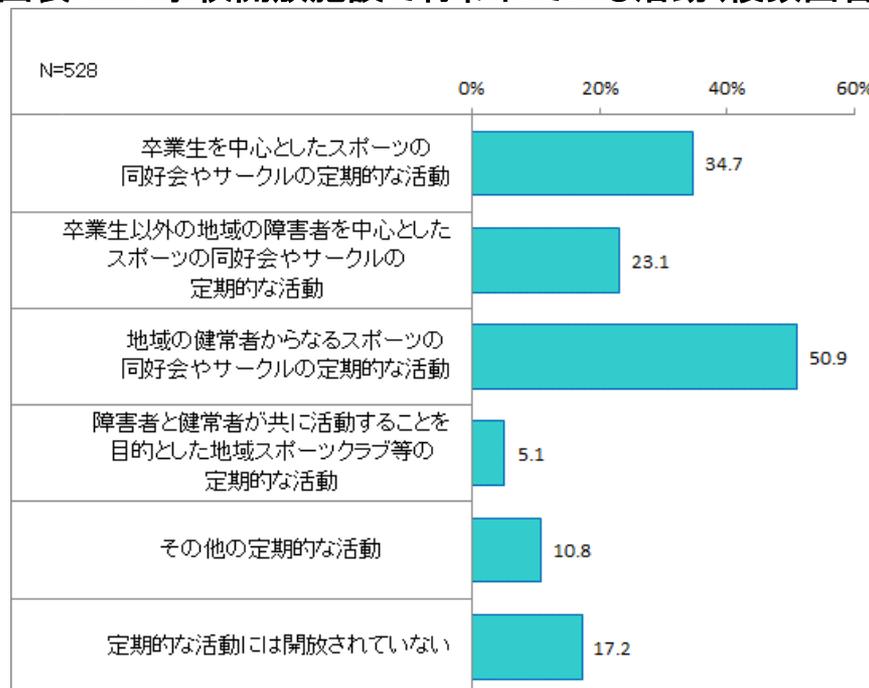
図表4-9 学校体育施設の自校の幼児児童生徒以外への開放状況



○学校開放施設で行われている活動

「地域の健常者からなるスポーツの同好会やサークルの定期的な活動」が約5割、「卒業生を中心としたスポーツの同好会やサークルの定期的な活動」が約3割である。

図表4-10 学校開放施設で行われている活動(複数回答)



○学校紹介① 東京都立清瀬特別支援学校

1. 学校の概要

学校種区分：知的障害（単置校）

児童生徒数：332人

学級実態：小学部（90人）、中学部（84人）、高等部（158人）

2. 運動部活動の現状

対象：高等部

種目：男子運動部（サッカー、ソフトボール、テニール、
バスケットボール）、
女子バスケットボール部

3. 特徴

- ・運動部活動に参加できない重度・重複障害の生徒にも機会を提供。
- ・児童生徒と卒業生と一緒に活動するサークルで大会にも参加。
- ・夏季休業中のプールに加えて、体育館やグラウンドも地域に開放。

○学校紹介② 石川県立いしかわ特別学校

1. 学校の概要

学校種区分：知的障害、肢体不自由（併置校）

児童生徒数：342人（知的障害205人、肢体不自由137人）

学級実態：小学部（116人）、中学部（98人）、高等部（128人）

2. 運動部活動・サークル活動の現状

対象：中学部、高等部（知的障害と肢体不自由と一緒に活動）

種目（部活動）：陸上部、水泳部、フライングディスク部、
ソフトボール部

種目（サークル）：ボウリング、電動車椅子サッカー、
卓球・レクリエーション

3. 特徴

- ・知的障害、肢体不自由の生徒が合同で部活動・サークル活動を実施。
- ・卒業後の生涯スポーツにつながる指導で生徒の自立心を育成。
- ・隣接する医療センターの子供たちに体育施設を開放。

○学校紹介③ 滋賀県立甲南高等養護学校

1. 学校の概要

学校種区分：軽度な知的障害（単置校）

児童生徒数：71人

学級実態：高等部

2. 運動部活動の現状

対象：高等部（一般校と合同で活動）

種目：陸上部、柔道部、卓球部、弓道部

3. 特徴

- ・ 同じ敷地内の一般校と合同部活動を実施。
- ・ 一般校と養護学校の顧問教員の綿密な連携体制。
- ・ 合同部活動が健常者の障害理解と障害者の社会性の向上の場に。

○地区ブロックの特別支援学校体育連盟の設置状況

視覚障害と聴覚障害では、地区ブロックごとに設置されていた。長野県においては、視覚障害は北信越ブロック、聴覚障害は関東ブロックに所属している。

図表4-11 地区ブロックの特別支援学校体育連盟組織の設置状況

地区ブロック	視覚障害	聴覚障害
北海道	北海道盲学校文化体育連盟	北海道聾学校文化体育連盟
東北	東北地区盲学校文化・体育連盟	東北地区聾学校体育連盟
関東	関東地区盲学校文化・体育連盟	関東聾学校体育連盟 関東聾学校中学部体育連盟
北信越	北信越盲学校体育連盟	北陸地区聾学校体育連盟
東海	東海地区盲学校体育連盟	東海地区聾学校体育連盟
近畿	近畿盲学校体育連盟	近畿地区聾学校体育連盟
中国	中国・四国地区盲学校体育連盟	中国地区ろう学校体育連盟
四国		四国地区聾学校体育連盟
九州	九州地区盲学校体育連盟	九州地区聾学校体育・文化連盟

○都道府県の特別支援学校体育連盟の設置状況

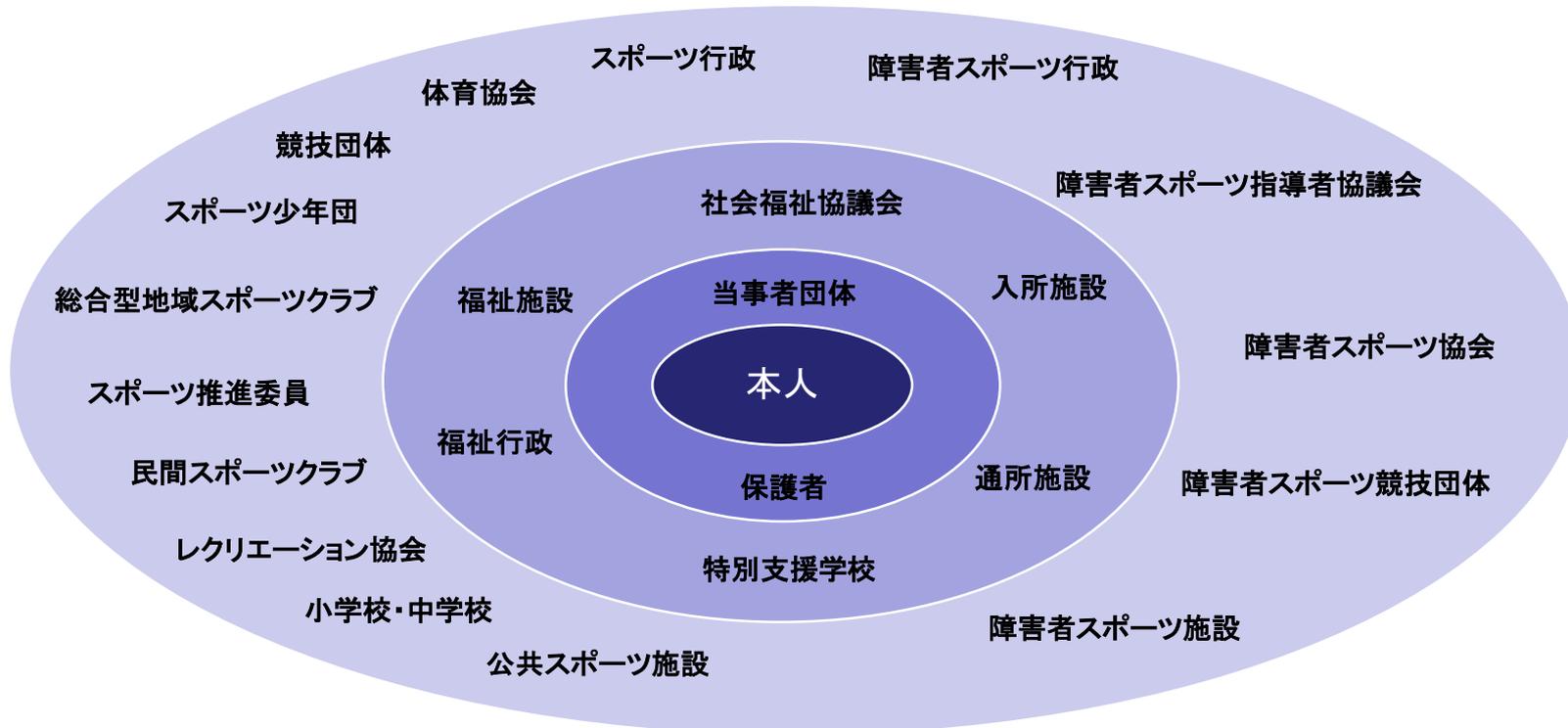
19都府県に設置されており、全国に21の特体連がある。全障害種に対応している特体連と知的障害に対応している特体連が9組織あった。

図表4-12 都道府県特別支援学校体育連盟組織の設置状況

No	都道府県	名称	対応種別				
			全障害種	知的障害	聴覚障害	肢体不自由	知的・肢体不自由
1	秋田県	秋田県特別支援学校体育連盟	○				
2	福島県	福島県特別支援学校体育連盟	○				
3	茨城県	茨城県特別支援学校体育連盟	○				
4	栃木県	栃木県特別支援学校知的障害教育校体育連盟		○			
5	群馬県	群馬県特別支援学校体育連盟		○			
6	埼玉県	埼玉県特別支援学校体育連盟	○				
7	千葉県	千葉県特別支援学校体育連盟	○				
8	東京都	東京都特別支援学校・特別支援学級設置学校体育連盟		○			
9		東京都肢体不自由特別支援学校体育連盟				○	
10		東京都ろう学校体育連盟				○	
11	神奈川県	神奈川県特別支援学校体育連盟		○			
12	長野県	長野県養護学校体育連盟		○			
13	新潟県	新潟県特別支援学校体育連盟		○			
14	山梨県	山梨県特別支援体育連盟	○				
15	静岡県	静岡県特別支援学校体育連盟	○				
16	岐阜県	岐阜県特別支援学校体育連盟	○				
17	愛知県	愛知県特別支援学校知的障害教育校体育連盟		○			
18	和歌山県	和歌山県支援学校体育連盟					○
19	山口県	山口県特別支援学校体育連盟	○				
20	福岡県	福岡県立特別支援学校知的障害教育校体育連盟		○			
21	沖縄県	沖縄県特別支援学校体育連盟		○			
			9	9	1	1	1

地域のスポーツ環境(健常者・障害者)

生涯スポーツ ⇔ 障害福祉 ⇔ 障害者スポーツ



障害者のスポーツ環境が大きく変わる！？

●障害者差別解消法(2016年4月1日施行)

- ①障害を理由に差別的取扱いや権利侵害をしてはいけない
- ②社会的障壁を取り除くための合理的配慮をすること
- ③国は差別や権利侵害を防止するための啓発や知識を広める

■不当な差別的取扱いとは、、、

- (例1) 今まで利用していた公共スポーツ施設が、精神障害が分かった途端に利用を拒否した
- (例2) 盲導犬を連れて人が、動物は施設に入れないと、公共スポーツ施設への入店を拒否された

■合理的配慮とは、、、

- (例3) 知的障害者のために、スポーツ施設の掲示物にルビをふる
- (例4) 公共スポーツ施設の入り口の段差に対して、容易に入れるように対応する(スロープ必須ではない)

(海外事例)

アメリカ: ADA (Americans with Disabilities Act) 1990年 / イギリス: DDA (Disability Discrimination Act) 1995年